



# グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。  
その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです!

File No.12



**安東里紗さん (22歳)**  
成城学園高校 (東京・私立) 卒業

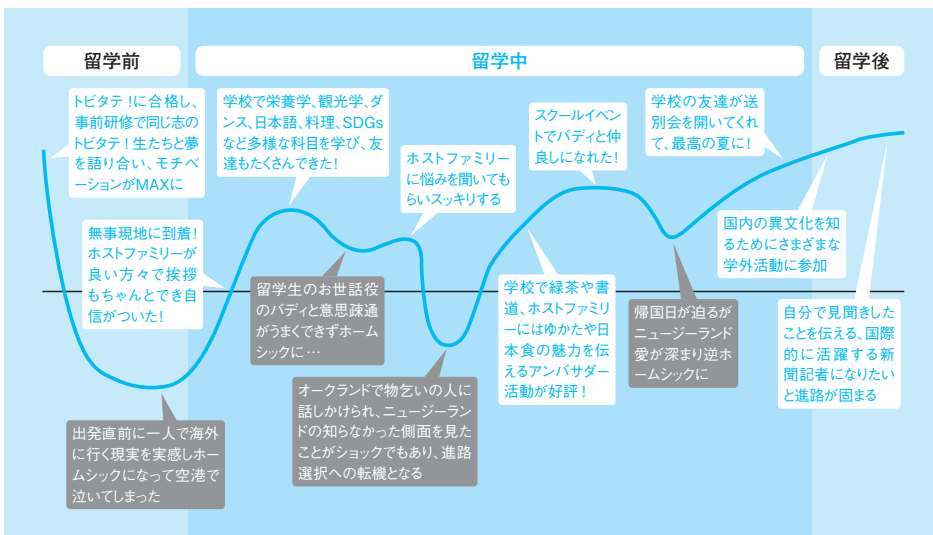
小学生のころから漠然と国際機関で働きたいと考えて高1でトビタテ!で留学。その経験からジャーナリズムに関心をもち、上智大学文学部新聞学科に進学、現在は4年生。来春から全国紙の新聞社で記者としての進路が内定している。

## 自分の目で実際に見た体験が 進路を決める動機となった

ユニセフ募金などをきっかけに、小学校のころから漠然と国際機関に興味をもち、英語の勉強をがんばっていました。中高一貫校で育った自分の視野が狭くなっていると感じ、将来も見据えて海外経験をしてみたいと思ったのがトビタテ!の応募動機です。

留学先のニュージーランドは食糧自給率が高くサステナブルで豊かな国というイメージしかもっていませんでしたが、ある日町で物乞いの人に話しかけられ、ニュージーランドの一面しか知らなかったことを痛感。その経験から、自分が実際に見た異文化を発信する新聞記者になりたいと、進路を見つめるきっかけとなりました。

私の場合は母校にトビタテ!を経験した先輩がいなかったため、SNSで検索してトビタテ生のOBやOGを探して質問したりしましたが、身近な経験者から話を聞けるともっと留学のハードルが下がると感じました。学校でそうした先輩に話を聞ける機会があるといいですね。



### DATA

- [留学した年齢]** 16歳
- [留学した国]** ニュージーランド
- [留学期間]** 高校1年の7月から7週間
- [留学内容]** 栄養学、観光学、SDGsなど科目履修  
**[留学しようとおもったキッカケ]** 東京しか知らない自分の視野を広げるため、インターネット検索で「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」\*を知った。  
\*「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



ホストファミリーはお母さんがフィリピン人、お父さんがポリネシア人、ホストメイトはインドネシア人という異文化交流ができる良い環境!

留学先は大学のように学びたい科目を選べる私立の女子校



アンバサダー活動として、学校で日本の緑茶の魅力を解説する講座と、日本語の授業で書道を教える講座を実践。日本文化の普及に努めました。



留学最後の授業のときに、クラスメイトがサプライズで送別会をしてくれて大泣き。帰りたくなかった。

高1で留学を体験したので、高2では国内の異文化を知りたくて参加した農林水産省の「聞き書き甲子園」で特別賞を受賞。



栄養学などを学んだ家庭科の教室。



文化祭と体育祭をあわせたようなスクールイベント。バディと仲良しになれたきっかけになった!



ファームトリップで羊にも会ったよ!

